

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所みのり		
○保護者評価実施期間	2025年 5月 1日 ～ 2025年 6月 10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	2025年 5月 1日 ～ 2025年 6月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 6月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	様々な活動プログラムの提供を行っています。制作やサーキット、リトミックなど様々な活動プログラムの提供をする中で季節行事、遠足、散策などのイベントも実施しています。	活動提供する主となる職員を交代制にする事によって活動内容の固定や偏りが無いよう工夫しています。	今後も事業所内外での研修を積極的に行い、職員全員が専門的な知識と技術を高め、スキルアップしていけるよう体制づくりを行います。
2	ご契約前にアセスメントを実施。その後、半年に一度のモニタリングを行い、職員とご家族が面談等の個別支援計画に関する話し合いに参加できる形を作り、具体的に丁寧な個別支援計画の作成を行っています。	半年間に一度、対面でお話しをする面談を設ける事によって「個別支援計画の振り返り」と「今後の課題と要望」をしっかりと相互理解、共有できるよう心掛けています。	今後も子ども達の発達支援や家族支援、移行支援・地域連携の項目に沿って5領域の視点から具体的な支援計画の作成に取り組んでいきたいと考えています。
3	職員会議など職員間で話し合う機会をしっかりと作ることで職員間のコミュニケーションを図りやすくし、情報共有する中で同じ方向性を持って支援、療育を提供する事ができます。	職員会議の中で子ども達への関わり方などより良い療育ができるよう職員間で話し合い、共通理解の元で子ども達への関わりを行っています。	今後も現場職員と管理者・児童発達支援管理責任者がコミュニケーションをしっかりと図り、全職員で支援が行えるようにしていきたいと思います。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こども園や児童館、小学校等の他事業との交流ができていない。並行利用をしている子どもの連携が図りにくい現状にあります。	並行利用しているため、子どもが所属している施設（児童館や小学校等）と利用時間内に都合を付ける事が難しいケースが多く、連携が図りにくい。	施設側と事業所側だけでは話が進みにくいため、交流イベントの有無など地域の区役所や福祉協議会に確認し、改善の取り組みを行っていきたいと考えています。
2	ご家族に対してペアレントトレーニングや家族へ向けての研修会ができていない。 保護者会など家族が交流できる場を作ることができていない。	事業所内でペアレントトレーニングを実施しようとする と職員の技術と人員増員が必要となる。 現時点では、子どもたちの療育をしっかりと行うことに マンパワーが全てる。	ペアレントトレーニングができる人材の育成・確保し、 安全に保護者間交流ができる体制づくりを考えていき たいと考えています。
3	地域との交流など地域に開けた事業所運営ができていない。 第三者委員会など外部の機関を運営できていない。	地域との交流は、どのように進めればいいのか方法が難しい。 外部機関と繋がりを持つ体制づくりの時間の確保が難しい。	市町村や公的団体へ方法の助言を聞くなど取り組みをして いきたいと考えています。